



## ～お知らせ～

大型連休は、如何お過ごしだったでしょうか。ご家族と共に心も体もリフレッシュされたことと思います。いよいよ新年度！本格始動です。受託業務も例年を若干下回るものの何とか確保することが出来ました。昨年度以上に「品質向上」に向け研鑽に励みましょう。

今年度、働き方改革関連法（正式名は「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」）が施行されました。大きな項目としては、①残業時間の上限が「月45時間・年間360時間」、②「年5日の年次有給休暇」の確実な取得です。

今まで以上に「仕事の効率化等」についての取り組みが重要になっています。職場では、「働き方改革」は「仕事のやり方改革」だと思います。その意識をもって日頃の仕事を各自で見直し改革の提案をお願いします。

5月から元号が「平成」から「令和」に変わりました。安部総理大臣の談話では、「新しい元は「令和」です。これは、万葉集にある「初春の令月にして 気淑く風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫す」との文言から引用したそして、この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められています。万葉集は、千二百年余りに編纂された日本最古の歌集であるとともに、天皇や皇族、貴族だけでなく、防人や農民まで、幅広い階層の人々が詠んだ歌が収められ、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書です。悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然。こうした日本の国柄を、しっかりと次の時代へと引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい、との願いを込め、「令和」に決定しました。文化を育み、自然の美しさを愛でることができる平和な日々に、心からの感謝の念を抱きながら、希望に満ち溢れた新しい時代を、国民の皆様と共に切り拓いていく。新元号の決定にあたり、その決意を新たにしています。（略）」。

日本の国書である万葉集。富山県の高岡市にある「万葉歴史館」では、越中に国守として赴任した大伴家持をテーマに様々な資料が展示されています。大伴家持は国守としての任務のほか『万葉集』の編纂にも加わり、全20巻のうち巻17～巻19に自身の歌日記を残しています。家持の歌は『万葉集』の全歌数4516首のうち473首を占め、万葉歌人中第一位だそうです。一度、訪れてみては如何でしょうか。ちなみに「家持」を「いえもち」と呼ぶやからもいるようですが「おおとものやかもち」ですから！

～かからむとかねて知りせば越の海の荒磯の波も見せましものを～ 万葉集巻17より

「有磯海（富山湾）」の名のおおもとの出所とされています。

○ホームページを開設しました！ [www.hokurikuyouchi.co.jp](http://www.hokurikuyouchi.co.jp)

○お願い 「Aipo」を活用してください。

